

## まえがき

その球は突然やってきました。

1900年代も終わりに近づき、ノストラダムスの大予言や世紀が変わるコンピューター問題を、間近に控え、後2年ほどで2000年になるうとしていた頃でした。その日も連日連夜の厳しいアニメのスケジュールに追われ、充実した一日が終わろうとしていました。

夜遅い食事にお風呂、そして明日の仕事を考えながらすぐに寝てしまうというような、いつもと変わらぬ夜中の2時頃だったと思います。

布団にもぐりこみ枕に頭を置いたその瞬間、斜め前方から淡いピンク色の光の球が、シューッと飛来し、バシュッと、とてつもない勢いで喉元に飛び込んできたのです。

それは、ほんの一瞬の出来事でしたが、あまりの衝撃に枕に置いた頭はもちろんのこと、体までもが飛び跳ねてしまいました。

まだ眠った状態ではありませんでしたから、夢でなかったのは確かです。「今のひかりの球は一体何だったのだろうか？」と思いつながら、睡魔には勝てずに眠ってしまったのをよく覚えています。

私の不思議体験は、これが始まりでした。

その球という存在が、今も尚、私のキーワードとなっています。

それからの私は、アニメーターからエネルギーを扱うヒーラーへと、人生の流れが大きく変わりました。

その後、エネルギーに関しての師匠とも言える、スピリチュアルガイドとの出会いがあり、現実の世界では知りえない情報を多くいただきながら、エネルギーの研鑽に励みました。

私のエネルギーの師匠であるそのスピリチュアルガイドは、なんと善良の神にも悪魔のような神にも思うがまま七変化するミラクルな存在だったのです。

私をこの世界に招き入れるために、厳しい体験をさせてくれたのでしょう。これは今だからわかるのですが、当時はよくわかりませんでした。ある時は、この世のものとは思えぬ（この世ではないのです）が……）天女の姿で甘い誘惑をしてきたり、またある時は、恐ろしい魔物となり凄まじい攻撃をしてきました。ところが何故か有難いことに私はその場から逃げださずに、真っ向から立ち向かうことができました。真っ向からと言っても、特に格好良く激しく戦ったわけではありません。「あなたが言っていることは、間違っている。撤回しなさい！」と、明確に伝えられた自分がいました。すると、どうでしょう、その魔物がスーッと消えていなくなりました。

この時、どのような困難な状況であっても、そこから逃げ出しはいけないのだということ、そして

心の在り様として、恐い存在であっても戦う必要がないということを知ったのでした。

スピリチュアルガイドが一言いいました。「よく頑張ったな」と。

この瞬間を師匠であるスピリチュアルガイドは、私がどのような対応をするのかを、見守っていたのでした。その時の私は、自分のガイドさんなのに何故助けてくれなかったのかと、不思議に思ったものでした。

また、このようなこともありました。

あの2011年の東日本大震災の1か月程前、2月13日の夜のことでした。

不思議な話が好きな友人たちとのお酒の場でした。特別なきっかけがあつた訳ではないのですが、隣の人の背中にフワツとした羽が生えているのが、突然感じられたのです。

するとどうでしょう。更に隣のお隣さんにも他のどなたの背中にも、色々な羽が生えているのがわかってしまったのです。

この気づきは突然やってきました。

どうしてわかったのですかと、よく質問をいただきますが、これは未だに謎のままです。

本文でお伝えする、エネルギーの球の構造やミラクルチャクラ、さまざまなエネルギーの流れは、研鑽をすればするほど新しくオリジナルな気づきがやってきて、今のエネルギーの元となった「宇宙の叡智である愛と感謝のエネルギーマンダラ」を大いに意識し始めることになったのです。

このエネルギーを元に、今の「エナジーサロン流天」というヒーリングサロンを開業する運びとなりました。

ミラクルな力が宇宙には溢れ、そして流れています。そのミラクルな宇宙の情報を純粹に心の真ん中にお持ちのあなたは、確実にヒーリングエネルギーを使うことができます。宇宙の大きな力を使い、あなたも宇宙の一部だということを大いに自覚してみてはいかがでしょうか。

本書でお伝えするエネルギーについては、オリジナル性を最も重要視していますので、独自の研鑽で得られた情報を元に書き進めていきたいと思います。

極自然にエネルギーを使ってみようと思われる方々、また、エネルギーヒーリングを勉強される皆様

にとつて、ミラクルなチャクラの解説書であり、エネルギーヒーリングの参考書となりますよう心から願っています。

2019年2月12日

西城隆詞